

社会福祉法人 日本ライトハウス

理事長 橋本 照夫

〒538-0042 大阪市鶴見区今津中 2-4-37

TEL 06-6961-5521 FAX 06-6968-2059

http://www.lighthouse.or.jp/



平成24年度 事業報告 (2012年度)

◎概 括

平成24年度は、平成25年4月から施行される『障害者総合支援法』に向けての基盤整備に努めました。リハビリテーション部門では、自立支援法の新体系移行にともなう新体系定着支援事業(旧事業運営安定化基金)による補助が平成24年度末で終了しました。これを受け、中堅職員を中心に施設の稼働率を高め、事業が安定して運営できるさまざまな方策を検討する委員会を組織、リハビリテーション事業全体を再編することをめざして平成25年度から新たに事業を開始する準備を行いました。年間をとおして介護支援度の高い方々も含めて一人ひとりのニーズに合ったプログラムを提供することや放し駅から施設までの送迎を実施するなど、サービスの一層の向上に努めました。

情報文化センターでは、「学び、働き、暮らし、楽しむ」ことに繋がる情報を点字・録音・電子書籍等の多媒体で製作提供し、併せて情報活用に必須の情報通信技術とインターネット、視覚補助具の利用支援を推進し、地の利を活かした文化・コミュニケーション活動の場を提供したほか、高度な製版技術を駆使して、視覚支援学校教科用図書などを安定的に供給しました。引き続き、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」サポートセンターの業務を受諾し、全国の会員からの利用が増加しました。

◎法人事業の概要

—法人創業90周年記念式典—

平成24年11月18日(日)、大阪市中央公会堂3階中集会室において、法人創業90周年記念式典を挙行しました。瑤子女王殿下ご臨席のもと、各界代表・利用者・卒業生・ボランティア・元職員ほか、500名を超える大勢の方々からご祝福を受けました。席上、これまで法人事業に多大なご支援をお寄せくださった方々99名へ感謝状を贈呈したほか、ご参集の方々には、岩橋武夫とヘレン・ケラー女史の往復書簡集と事業紹介DVDを贈呈しました。

—岩橋武夫賞の授与—

アジアにおける視覚障害者福祉・教育・失明防止等に貢献のあった人に対して授与される岩橋武夫賞の第35回(2012年)受賞者は、姉妹施設である韓国・シロアム視覚障害者福祉館創設者の金善泰(キム・ソンテ)氏に決定、上記の法人創業90周年記念式典において贈呈しました。

—第20回ライトハウス祭り—

11月10日(土)、恒例のライトハウス祭りを鶴見事業所で開催、400名を超える地域の方々が参加され、交流を深めました。

—チャリティ事業—

第30回チャリティコンサートは、例年どおり大阪城東ロータリークラブの協賛により、4月14日(土)、ヴァイオリンの和波孝禧氏を迎え、澤和樹氏の指揮、千里フィルハーモニア大阪の演奏により、ザ・シンフォニーホールにおいて開催し、1,297名の方々が来場されました。

当日の会場募金およびチケット売上げによる収益の一部は、盲導犬育成支援に充当いたしました。

—研修・交流・広報事業ほか—

- ・国際盲導犬学校連盟の総会・セミナーが5月にフランス・パリで開催され、職員1名を派遣したほか、オーストラリア・ヴィクトリア盲導犬協会に職員1名を6か月間派遣しました。また、アジア・ガイドドッグ・ブリーディング・ネットワークの合同会議を法人主管で1月に盲導犬訓練所で開催しました。
 - ・日本盲人会連合主催の盲女性研修大会が8月に大阪で開催され、ガイドなどに協力しました。
 - ・新聞や放送・出版関係、大学の調査研究や博物館の特別展示、企業の社史編纂などにも法人が所蔵している文献や写真などの資料を提供したほか、番組の取材も受けました。
 - ・引き続き、日本盲人福祉委員会、日本盲人社会福祉施設協議会等の関係団体の役員として法人職員が就任し、協力を行いました。
 - ・引き続き、大阪市・大阪府の公立小学校を中心に、幼稚園から高等学校までの要請に基づいて講師を派遣し、盲導犬啓発活動を行いました。
 - ・例年どおり、職員人権啓発研修会を2回実施したほか、職員全体会、役職者の業務研修等を行いました。
- ◀募金事業に関しては、別冊の『FORWARD』をご覧ください▶

◎新体系定着支援事業の終了と

新たなサービスの開始準備

障害者支援施設日本ライトハウスきらきらと障害福祉サービス事業所日本ライトハウスわくわくは、障害者自立支援法による新体系に移行後4年が経過し、年度末をもっていわゆる激変緩和措置が終了しました。そのため、利用登録がなかったきらきらの自立訓練(生活訓練)を廃止し、新たに施設入所支援をともなう生活介護サービスを定員6名で平成25年度から開始することをめざして、既存の人員を効率的に配置し、どのようなサービスを維持・展開できるか検討を進めたほか、廊下の手すり設置工事や居室の改装工事などを行いました。

◎海外研修

盲導犬訓練部では、平成19年度に続いて、オーストラリアGuide Dogs Victoriaに中堅職員1名を6か月間派遣し、訓練技術の向上をはかりながら、現地で育成した4頭の盲導犬を輸入しました。

◎寄贈・助成による設備・機器整備

立川福祉基金よりわくわくの生産活動用機器を整備、イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」により全自動洗濯機・食器乾燥機を配備したほか、ボランティアのご支援により盲導犬慰霊碑を改修することができました。また、社会福祉法人清水基金より送迎用車輛の更新が決定(執行は平成25年度)しました。多くのご助成を受けて事業を進められたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

1. 日本ライトハウスきらきら

きらきらの日中活動サービスの内訳は、自立訓練(生活訓練)(6名:登録0)、自立訓練(機能訓練)(20名:登録66名)、就労移行支援(6名:登録13名)、施設入所支援(30名:登録13名)でした。進路の内訳は、復職・就職6名、職業訓練校

進学2名、わくわく利用13名、家庭復帰2名、その他2名でした。

きらきらの修了後、居宅支援サービスや行政機関等との連携を深め、安定した居宅生活を開始できるよう、幅広い支援を行いました。

2. 日本ライトハウスわくわく

引き続き、障害者自立支援法に基づく事業所として、創作活動・生産活動・各種技術訓練(歩行・点字・情報機器・日常)、スポーツ・レクリエーション活動を四つの柱とする期限の定めのない生活介護サービスを提供しました。年度当初の登録は98名で、きらきら修了者の受入れにより、年度末の登録者数は105名となりました。修了者は7名(原職復帰3名、障害者施設3名、特別支援学校進学1名)でした。

JR放出駅と施設間の送迎サービスは、延べ3,713名の利用でした。

3. 職業訓練部

20名の在籍者に職業訓練プログラムを提供し、11名が修了・中退(就職7名、求職中2名、進学2名)しました。引き続き、就職した修了者の体験を聞く会を開催したほか、復職を希望するきらきらの就労移行支援利用者の支援も行いました。

4. 盲導犬訓練部

パピーウォーカー宅へ59頭の飼育委託を行いました。アジア各国の盲導犬協会との間で繁殖に関する協力を進めるなど、雄犬10頭、雌犬24頭の繁殖犬を確保しました。

(盲導犬貸与 21名 18頭)

5. 盲人ホーム(医療実技指導部門)

引き続き医療免許を所持する利用者への技術向上と総合的な資質向上に力を入れて取り組んでいます。

(利用者5名、修了1名、継続4名)

6. 居宅支援センターてくてく

障害者自立支援法の「居宅介護・重度

訪問介護」、「移動支援」、「同行援護」の各事業(利用登録40名)、介護保険法の「居宅介護支援」、「訪問介護・介護予防訪問介護」の各事業(利用登録18名)を実施しました。ヘルパー:55名。

7. 養成分部(指導者養成部門)

○厚生労働省委託 第42期視覚障害生活訓練等指導者養成課程

1年基礎Ⅰ 10名、1年基礎Ⅱ 6名

2年実習 1名、2年応用 1名

○日本眼科医会共催

医療関係者視障リハ研修会 7名

○文部科学省・全国盲学校長会後援

教育関係者視障リハ研修会 5名

○日本盲人社会福祉施設協議会后援

視障リハ基礎講習会(2回) 40名

○在宅訪問指導

堺市:254回、奈良県:109回、

和歌山県:302回、宝塚市:89回

8. 相談室

電話相談:248件、来所相談:119件

9. その他事業

- ・ロービジョン(弱視)相談を継続し、弱視者用補助具や社会資源を紹介したほか、障害年金の説明などを行いました。
- ・修了された方々に『ライトハウス通信』を点字・大活字・メール版により年2回発行しました。
- ・広報誌『ピカ』を年3回発行し、地域の福祉・医療・各種相談支援団体等にお配りしました。
- ・登録ボランティアは、101名にのぼり、延べ658件の活動にご協力いただきました。感謝申し上げます。『ボランティアだより』を年2回発行しました。
- ・学校関係や国内外の視覚障害関係機関等からの依頼により、引き続き研修生・実習生を多数受け入れたほか、専門講座や講習会等に職員を講師として派遣しました。

◎サービスの拡充をめざして

西事業所・肥後橋新館では、引き続き点字・デージー録音・マルチメディアデージーなど、多媒体での製作を行い、多様なニーズに応えるとともに、視覚障害以外の原因で読書に困難のある方々にも、広範囲できめ細かなサービスを提供しました。引き続き、視覚障害者情報提供ネットワークシステム「サピエ」サポートセンターの業務を受託し、懇切なサポートに努めたほか、パソコンがなくても簡単に録音図書を読むことができる「テキストデージー」の一層の普及を促進しました。また、サービスフロアの充実に努め、最新の情報機器等の体験ができる「ITサロン」を開催するなど、情報・文化・コミュニケーションの拠点としての役割を果たしました。

また、東事業所を中心とした点字・デージー等出版事業の維持・発展に努めたほか、業務委託3年目となった早川福祉会館点字図書室の運営の効率化を進め、それぞれ所期の目標を達成することができました。

1. 点字・録音図書の製作・受入

(単位：タイトル数)

種別	点字図書	録音図書
製作図書	271	229
委託配布図書	40	28
寄託・その他	195	328
購入図書	9	6
蔵書累計	9,066	15,610
(冊/巻数)	37,344	47,157

2. 図書館サービスの利用状況

(1) 図書館利用者数

大阪市：1,754名 大阪府：1,523名
他府県：1,246名 合計：4,523名

(2) サービス利用の状況

点字図書貸出	6,570冊
テープ図書貸出	5,460巻
デージー図書貸出	43,382枚
フロッピー図書貸出	1枚

対面リーディング	1,149件	
(3) 全国施設間の相互貸借		
貸出数	借受数	
点字図書	3,656冊	1,453冊
テープ	2,996巻	4,623巻
デージー	10,687枚	8,310枚

3. 機器・用具サービス

引き続き、用具・機器展示・販売、パソコン指導などを行ったほか、訪問利用支援サービスも実施しました。サービスフロア入室：5,114名、問合せ：2,226件、訪問支援：351件。

4. ネットワーク利用支援サービス

視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」のサービスを引き続き受託し、全国の個人会員や施設会員に対して、インターネットによる図書情報等の利用の普及に努めました。年度末登録数：個人会員11,205名、施設会員261団体。

5. 多多数複製点字製作提供事業

(1) 支援学校等向け点字教科用図書製作

視覚障害児童・生徒・学生向けの教材の点字データを製作し、小学部15点24巻、中学部9点33巻、高等部普通科31点232巻、理療科19点76巻の教科用図書を点字・拡大・デージー版で発行、安定的に供給しました。

(2) 厚生労働省委託図書貸出配布事業

点字製版	27タイトル	5,040冊
CD製作	6タイトル	432枚
デージー	18タイトル	1,170枚

(3) メディア製作センター事業

国立国会図書館による「学術文献録音図書製作作業」、国立民族学博物館の月刊広報誌の製作を受託したほか、官公庁や民間企業から委託を受け、カセットテープとデージーCDによる録音・編集・出版を行いました。また、自治体や団体が主催するボランティア講習会等へ講師を派遣しました。

(4) 各種委託製作他

大阪市・和歌山市等、自治体発行の点

字版広報誌の製作を受託しました。また、行政・教育機関等からの依頼による点字印刷・点訳物・点字サイン(プレート類)等を製作・配布しました。

(5) 教材等個別製作

教育委員会や各学校・大学等の依頼に応えた教材や試験の点訳・墨字訳を受託しました。小学校：9校32件、中学校：6校31件、高等学校：1校4件、大学：2校66件、自治体等：25団体89件。

6. 国際協力事業

広げよう愛の輪運動基金のダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業に引き続き協力し、ベトナムとタジキスタンの視覚障害青年の研修を行いました。

7. ボランティア・広報事業ほか

西事業所登録ボランティア：650名。

点訳等の講習会を開催したほか、各種講習会等にも講師を派遣しました。

毎月の施設見学会は、12回で79名、グループ・団体の個別見学では、22団体、163名の方が参加されました。

8. 各種情報の提供

視覚障害者情報誌『読書』を年11回、ボランティア向け情報誌『ONE BOOK ONE LIFE』を年11回、専門情報誌『対面リーディング通信』を年6回、『ろくおん通信』を年6回、『点訳通信』を年4回、それぞれ発行しました。

9. 早川福祉会館点字図書室

利用登録数：1,003名 ボランティア登録数：380名(音訳200名、点訳180名)

(1) 製作・貸出実績(単位：タイトル数)

種別	製作	貸出
デージー図書	124	38,337
テープ図書	95	8,186
点訳	132	1,807
点字打出し	—	1,849

(2) その他サービス実績

プライベートサービス	623件
対面読書サービス	150件